

『薬剤学（第2版）』4章の章末問題解答例

1. 次の剤形は、人体のどの部位に投与・適用する製剤か。

エリキシル剤（経口投与）、ガム剤（口腔内に適用）、テープ剤（皮膚に適用）、パップ剤（皮膚に適用）、リモナーデ剤（経口投与）、ローション剤（皮膚、頭皮に適用）

2. 製剤の容器のうち、次の特徴をもつものはそれぞれ何容器に当たるか。

- a) 微生物が侵入しない（密封容器）
- b) 液体が出入りしない（気密容器）
- c) 酸素が出入りしない（密封容器）
- d) P T P包装がこの一種である（気密容器）
- e) バイアルがこの一種である（密封容器）

3. 日局16に記載されている4種の水の製法を記せ。

常水：水道水そのもの、または井水や工業用水から水道水の製法に準じて製する

精製水：イオン交換、蒸留、逆浸透または限外ろかなどを単独あるいは組み合わせたシステムにより、「常水」から製する

滅菌精製水：「精製水」を密封容器に入れ滅菌して製するか、あらかじめ滅菌した精製水を無菌的手法で無菌の容器に入れ密封して製する

注射用水：「常水」にイオン交換、逆浸透などによる適切な前処理を行った水又は「精製水」の蒸留または超ろ過により製する

4. トローチ剤、舌下錠、バツカル錠の共通点と相違点を表にまとめよ。

	トローチ剤	舌下錠	バツカル錠
適用部位	口腔内	口腔内(舌下)	口腔内(歯茎頬間)
吸収速度	吸収せず	速い	ゆっくり
作用部位	局所(口腔, 咽頭)	全身	全身

5. 点眼剤と注射剤の、作用部位、濃度の表示法、容器、水性溶剤の種類、非水性溶剤の種類、保存剤添加の可否、着色剤添加の可否、について比較せよ。

	点眼剤	注射剤
作用部位	眼組織	主に全身
濃度表示法	% (w/v%の意味)	% (w/v%の意味)
容器	気密容器	密封容器または微生物の混入を防ぎうる気密容器
水性溶剤の種類	精製水または生理食塩液など	注射用水, 生理食塩液, リンゲル液, 5~20%ブドウ糖注射液など
非水性溶剤の種類	植物油, 水溶性有機溶剤 (プロピレングリコール), 鉱物油 (流動パラフィン)	植物油, 水溶性有機溶剤 (エタノール, プロピレングリコール, マクロゴール)
保存剤添加の可否	多回投与容器に充てんするものは保存剤添加可能	分割使用を目的とするものは保存剤添加可能
着色剤添加の可否	別に規定するもののほかは着色剤添加不可	別に規定するもののほかは着色剤添加不可

6. 生薬関連製剤のうち、固形製剤はどれか。またエタノールを含む液状製剤はどれか。

固形製剤 (エキス剤のうち乾燥エキス剤, 丸剤, 茶剤)

エタノールを含む製剤 (酒精剤, チンキ剤)